

LONGINES WORLD'S BEST RACEHORSE RANKINGS 2013

OVERVIEW

2013年は牝馬が主役の年として記憶されるであろう。1977年に国際クラシフィケーションとして公式ランキングが発表されて以来、初めてトップの2頭がいずれも牝馬となったからだ。その2頭は仏調教3歳牝馬トレヴと豪調教6歳牝馬ブラックキャビアで、130ポンドで並んでいる。ロンジンワールドベストレースホースランキングが真に国際ランキングであることは、トップホースの分布に表れている。トップ10の構成が欧州から4頭、米から3頭、アジアから2頭、豪から1頭となっていることがその証左だと言える。

THE LONGINES WORLD'S BEST RACEHORSE RANKINGS Leading Horses

1st January -31st December 2013

Rank	Horse	Rating
1 =	BLACK CAVIAR (AUS) Peter Moody - AUS	130
1 =	TREVE (FR) Mme C Head-Maarek - FR	130
3 =	ORFEVRE (JPN) Yasutoshi Ikee - JPN	129
3 =	WISE DAN (USA) Charles Lopresti - USA	129
5 =	LORD KANALOA (JPN) Takayuki Yasuda - JPN	128
5 =	NOVELLIST (IRE) Andreas Wohler - GER	128
7 =	ANIMAL KINGDOM (USA) Graham Motion - USA	125
7 =	MUCHO MACHO MAN (USA) Katherine Ritvo - USA	125
7 =	OLYMPIC GLORY (IRE) Richard Hannon - GB	125
7 =	TORONADO (IRE) Richard Hannon - GB	125

豪の歴史的な名牝**ブラックキャビア(130)**は、前年すでに、ランキングを作成するIFHAのハンデキャッパーに素晴らしい牝馬として認められていたが、2013年も衰えを見せることなくG1競走を3勝（通算G115勝）し、4月のTJスミスS(G1)を最後に無敗のまま引退した。同馬は2010年に123ポンドの評価を得て以降、翌年には生涯最高の132ポンドの評価を得た。その後、2012・2013年と130ポンドの評価を得ただけではなく、3年連続で牝馬トップとなる史上初の快挙を成し遂げた。同馬の偉大なる功績の証は、2月に完勝し、同じく130ポンドの評価を得た「ブラックキャビアライトニングS(G1)」という競走名に示されていると言えるであろう。

無敗の仏調教3歳牝馬**トレヴ(130)**は2013年にはG1競走を3勝したが、凱旋門賞(G1)では同世代の牝馬や古馬を圧倒し頂点を極めた。同馬は1996年のボスラシャム(131)以来、欧州の3歳牝馬としては最も高いレーティングを得た。同馬は4歳となる2014年も現役を続行することによって、1997年にも2年連続で同様の評価を得たボスラシャムの記録に並べるか、またはさらにそれを上回る評価を得ることをできるか、興味が尽きない。さらに付け加えると、同馬は1994年に130ポンドだった英調教牝馬**バランシーン**以来、3歳牝馬としては久々に牝馬を抑えてランキング全体のトップとなった。また今世紀に限定すると、2008年のザルカヴァ(128)や2011年のデインドリーム(128)を抜いて3歳牝馬として最高のレーティングを得たことになる。

ランキング3位タイには日本調教馬**オルフェーヴル(129)**と並んで、米調教6歳・馬**ワイズダン(129)**がランクインしている。2012年に米年度代表馬に選出された同馬であるが、9月のウッドバインマイル(G1)で他馬を寄せ付けない圧倒的なパフォーマンスを見せたことにより、前年同様の高い評価を得た。1995年に北米が国際ランキングに加盟して以降では、同年のノーザンスパークと並んで北米芝部門において、歴代トップの地位を維持している。

日本調教5歳馬**オルフェーヴル(129)**は凱旋門賞(G1)ではトレヴの後塵を拝することとなったが、12月の有馬記念(G1)では8馬身差の圧勝劇を演じ、競走生活の最後を締めくくった。この時に得た129ポンドという評価は、2006年のディーパインパクト(127)や2010年のナカヤマフェス

タ(127)を凌ぎ、今世紀における日本調教馬のレーティングとしては最も高いものである。また、これは同じ日本調教馬であるロードカナロア(128)をも上回るものであった。そのロードカナロアであるが、圧勝劇を演じた12月の香港スプリント(G1)連覇を含め、2013年にはG1競走を4勝した。2012年には120ポンドであった同馬はスプリンターズS(G1)連覇の他にも6月の安田記念(G1)も制し、多才な距離適性を見せた。さらに付け加えると、同馬は今世紀における牡馬の芝スプリント部門のトップとなったのみならず、1990年のデイジュール以来、牡馬スプリント部門において最も高い評価を得ることになったものである。

独調教4歳馬のノヴェリスト(128)は2013年にはG1を3勝するなど無敗であった。その中でも7月のキングジョージ6世&クイーンエリザベスS(G1)では2着に5馬身差をつける圧巻のパフォーマンスを見せた。そこで得た128ポンドという評価により、独調教牡馬としては初めて牡馬部門における欧州全体のトップとなった。また、1980年代半ばに活躍したアカテナンゴ以来、2011年のデインドリーム(128)と並んで、独調教馬におけるトップとなった。

上記の6頭に続くのが125ポンドで並んでいる4頭である。北米からはダート・人工馬場部門の2頭と英調教の芝のマイラー2頭がそれぞれランクインしている。アニマルキングダム(125)は3月のドバイワールドカップ(G1)を快勝した。同馬は2011年にはダートのケンタッキーダービー(G1)を制したのみならず、2012年には芝のブリーダーズカップマイル(G1)でワイズダンの2着になるなど、幅広い馬場適性を示してきた。ムーチョマッコマン(125)はサンタアニタ競馬場で行われたブリーダーズカップクラシック(G1)において、3歳ダート部門トップのウィルテイクチャージ(124)や愛調教馬でダート初挑戦だったデクラレーションオブウォー(124)等を降し、前年より高い評価を得て、ダート部門のトップに立った。

2013年の欧州ベストマイラーは両馬とも英のリチャード・ハノン調教師の管理馬である。オリンピックグローリー(125)は8月のジャックルマロワ賞(G1)ではムーンライトクラウド(123)に僅差敗れたが、10月のクイーンエリザベス二世S(G1)を快勝している。トロナド(125)は7月のサ

セックス S(G1)を制し、愛調教馬の宿敵ドーンアプローチ(124)へのリベンジを果たした。